

令和元年度

# 塩田ウォーク資料（6年生作成）





## アツケシソウの育つ環境

今からアツケシソウについてせつめいします。

アツケシソウは、海水の出入りする海水をかぶる砂地に、生息する一年草です。アツケシソウは、元々、寒い地域の植物です。世界では、ヨーロッパ、北アメリカなど等に生えているそうです。

アツケシソウは、北海道の厚岸町で発見されたそうです。

多喜浜のアツケシソウは、世界で一番南限にあるので、新居浜市の天然記念物に指定されているのです。

## 2 アツケシ草について

アツケシ草は高さ15～30cmくらいに成長したくさんの枝をだします。10月中ごろから鮮やかな紫色になります。多喜浜では、早ければ12月初旬に芽がでます。

北海道大学教授の博士が、北海道のアツケシ町の名をとリアツケシ草としました。多喜浜のアツケシ草当時、西条中学であった、岡本忠道氏が塩田周辺に、生えている草を採取して学校に提出して発見されました。

新種が発見されると大騒ぎになり一時は多喜浜草という名前になりそうでしたが北海道にもあるとわかり残念ながらかなわなかったそうです。昔、多喜浜の塩を、北海道にはこぶために、船をつかっていました。帰り道船が安定しないので、北海道の土をつかって、安定させました。この時土の中にアツケシ草の種が、混ざっていて多喜浜にアツケシ草が、発芽したそうです。多喜浜のアツケシ草が、日本で一番南に育つことから、新居浜市の天然記念物に指定されています。

### 3 アツケシソウと、岡田さんの関わり

アツケシソウといえば、岡田さんというイメージがあると思います。

しかし、廃田後、塩田跡を工業団地にするため、埋め立てられるとアツケシソウが、無くなるのでアルバイトに行っていた、岡田さんの弟さんが木の箱に入れてこの場所に持ってきて、置いたそうです。すると、見事に成長し、紅葉したそうです。

皆さんは、どのように、岡田さんがアツケシ草を育てているか知っていますか。

アツケシ草は、海水でしか育ちません。

雨が降ると、海水が薄くなるので、アツケシ草が枯れてしまいます。だから、雨にはとても苦労しているそうです。

去年は雨がいっぱい降ったので、育ちにくかったのですが、今年あまり雨が降らなかったで、とてもきれいに咲いたそうです。

皆さんにはこのアツケシ草を育てている土がどんな土か知っていますか。

じつは、多喜浜塩田で使われていた土を、運んできてアツケシ草を育てています。

土が元気になるように、土を耕す作業は大変な作業になるそうです。

これで、あつけし草の説明をおわります。

ここにあるバス停の名前を知っていますか。よく見るとガリ山と書いています。

多喜浜塩田では、塩田でできたカン水を、につめる時に、燃料として木材を使っていました。しかし、1807年ごろから少しずつ石炭を使うようになり、少しずつ石炭のみを使うようになりました。この時燃料として使っていた石炭の燃えかすのことをガリと呼んだそうです。

では、今からガリ山について説明します。

昔、多喜浜には大きく5つの塩田がありました。その全ての塩田で出た、ガリを一度ガリ山に集め、海に捨てていました。この場所には、捨てられるガリが集められ、山の様になっていたことから、ガリ山という名前が付けました。

## 2 ガリの投棄について

(今から、ガリ投棄について説明します。)

今、ここにいる場所は、昔、入川という川でした。その川は、東浜自治会の前までの道路まで、続いていて、ここを船で通り、海にガリを捨てていました。ガリは日本海や、太平洋にすてていました。



## 1 常盤公園について

ここは、常盤公園です。ここには、元々東浜産塩株式会社の事務所がありました。

## 2 東浜産塩株式会社について

東浜産塩株式会社は、4人がお金を集めて作った塩作りの会社で愛媛で最初の株式会社です。

主な仕事は、塩を作る時に物を燃やすための石炭を買う仕事、働いて貰ったお金をあげる仕事、塩を売る仕事でした。ボンデンの旗を上げるのも、この会社がしていました。そしてこの東浜産塩株式会社は地域の人からマルトウと呼ばれていました。

ボンデンとは、塩田の一日の作業量を働いている人に伝えるための旗です。横の長さは約152cmで、たたみ1枚分です。紅白と赤一色の2種類がありました。紅白の旗があがった時は、一日分の作業をします。赤一色の旗は次の日の天気が悪い時にあがり、次の日の作業も一日でしなくてはなりませんでした。

これがボンデンを立てる柱です。もともとは15mぐらいあって、ここから遠い白浜や新田からもよく見えました。

ボンデンという旗の名前の由来について説明します。  
ボンデンのもとになった言葉はインドのお坊さんが使う言葉で梵天といい、宇宙という意味だそうです。旗を上にあげるので梵天からとってボンデンになったといわれています。

#### 4 ボンデンと塩田で働いていた人について

塩田の作業はボンデンが上がる前にしてしまうと、文句を言われていたそうです。早くし始めると、それだけ塩がとれるので、皆が同じ時間作業をすることで、平等に作業をし、塩を作ることが求められました。また、競い合うと、団結力が下がってしまい、良い塩ができませんが、多喜浜塩田では、約束を破る人は、全くいなかったそうです。このとおり多喜浜塩田は気持ちに関しても、素晴らしい塩田でした。

今、僕たち多喜っこが大切にしている「かしょい」の気持ちは、こういったところからもつながっています。

### 3 明正寺について

(ボンデングループの後)

今から、明正寺について説明します。

明正寺は、1290年ほど前、愛媛県を支配していた越智という人が建て、西法寺とよばれていました。それから376年後に、女性天皇の明正天皇の病気がなおるように願うことを命じられ、それ以来、西法寺を明正寺と改めました。

それから、明正寺は、天皇一族の寺になり、寺の屋根には、天皇一族の印が、ついています。

それから165年後、火災が、おこり、民家16軒と共に全焼しましたが、書物などは、無事でした。また、2年後に、西条のお殿様の、松平さんに助けられ、今の明正寺として再建されました。

4

明正寺にはミヨウショウジザクラや深尾権太輔さんのお墓があります。

ミヨウショウジザクラは市の天然記念物になっている桜で、2月の終わりごろから3月の中ごろまでの間に咲き始めます。もう少しすると花がつかますね。よければ見に行ってみてください。

深尾権太輔さんは長野県から来て、この多喜浜に塩田を作ろうと、初めに取り組んだ人です。多喜浜に深尾さんが塩田を作ろうとした理由は、潮が一番引いた時と一番満ちた時のちがいが大きくて、塩田をするのに良かったからだそうです。

その深尾さんのお墓が明正寺にある理由は、深尾さんが明正寺で亡くなったからだそうです。

多喜浜塩田をつくろうと力をつくしてくれている方がねむっている大切なお寺を、これからも地域の宝の一つとして大切にしていきたいですね。

①

天野喜四郎さんについて

天野喜四郎さんとは深尾権太輔さんの作り始めた古浜塩田を引き継いで完成させた人です。

天野喜四郎さんは1690年今の広島県に生まれて、1756年に亡くなりました。

天野喜四郎さんは多くの、塩田を作り、一代目が亡くなった後も次の代がその気持ちをついでいき、五代目で240町の塩田が完成し、日本有数の塩田を完成させました。

②

顕彰碑と墓について

この墓は天野さんが亡くなられた後にこの山の真ん中ほどに建てられました。

天野家の人々が完成した塩田を見守ってほしいと考え、山の上に建てました。

けれど山の上までお墓まいりに行くことが危なくなったので、2・3年前に今ある場所に引っ越し、おろしてきたそうです。

顕彰碑とは、このように石に文字を彫り込んで作った物で、この顕彰碑は、天野さんの活やくをたたえ新居浜文化協会により、建てられました。

碑文は、鷺尾勘解治さんが書いています。



## 鷲尾勘解治の説明

鷲尾勘解治とは、別子銅山の責任者になり、別子銅山で働いている若い人たちを育てるための塾をつくった人です。

③

ソテツと松について

このソテツは、塩田の開発をした事を記念して植えられました。  
た。

鹿児島から、持ってきて植えられたそうです。

長年、大事に育てられこのように大きく成長しています。

その時に、一緒に植えた松は、枯れて今は、ありません。

このソテツは、63年前の昭和32年で、高さが約5m、根回が約  
7mです。

今は、これよりもだいぶ大きくなっています。

④

文化財について

久貢屋敷にある文化財と天然記念物について説明します。

文化財とは、人が作った物を市や県が大切に守っている物です。

天然記念物とは、法律によって保護されるように決められためずらしい植物です。

1つ目の文化財は久貢屋敷全体です。

昭和52年4月に文化財になりました。

2つ目の文化財は、天野喜四郎さんの墓です。

昭和53年4月に文化財になりました。

最後に、昭和32年12月に蘇鉄が愛媛県の天然記念物に指定されました。

新居浜の宝がたくさんあることが分かります。

大切にしたいですね。

## 1. みなと神社しおがま神社について

この神社には、みなと神社としおがま神社という2つの名前があることを知っていますか？

1724年最初の塩田である古浜完成にあたり、天野喜四郎など6人が、塩田と浜人の守り神として吉和浜湊大明神という海の神様をこの場所にむかえいれ、みなと神社をつくりました。

次に、東浜塩田ができてそこえ古浜塩田にあったみなと神社をひっこししました。

その時宮城県塩釜市より、塩の守り神しおがま神社のお塩の神様をむかえました。

だから、ここにはみなと神社の神様と塩がま神社の神様、二つの神様がいます。この二つの神様がいつもけがと事故がないかみんなの事をみもってくれています。

②

この、しおがま神社の場所を決める為に、  
面白い決め方をしたことを、知っていますか？

実は、神社の場所を決める為に

現在の神様から少し北沖から、神様のお札を  
流しました。

そして、お札を流して、止まった所に神社を  
つくったんだそうです。

流したら、東浜塩田の北堤防の中央部に、  
流れついたので、その場所にしおがま神社  
湊神社の神様が祀られました。

神様が、自分で自分のいる場所を決めたなんて  
面白いですね！

だから、みなと神社と しおがま神社は、今の場所にくる前、「浜の宮」として250年あまりにわたり多喜浜塩田の中央部にありました。しかし、塩田が終わったことで1974年（昭和49年）10月にみなと神社しおがま神社として、今のこの場所へせんぐうされました。

せんぐうとは、神様に場所を移動してもらうことです。

しおがま神社も、みなと神社も、何百年も前から、この多喜浜地域に住む人々を、守ってくれているんですね。

だからこそ、これからも、大切にしていかなければいけないと思います。

これで、発表を終わります。





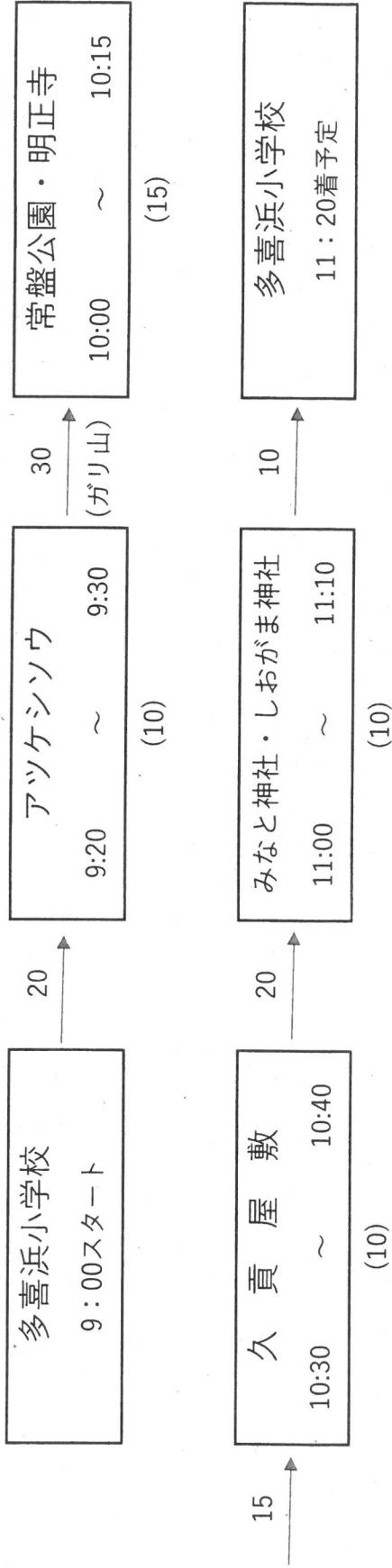


多喜浜小学校3年生・6年生 合同塩田ウォーク

令和2年1月31日 (金) 9:00～

多喜浜小学校3年生21名・6年生17名 引率3～4名 (2班)

①班



②班

